



雪国観光圏
 utsuma minamiuonuma
 yuzawa takamiyama
 suikan minakami sakae

第4回戦略会議レポート 2017/10/6 湯沢町役場

日本版DMO推進研究会セミナー33名の皆様が戦略会議を傍聴された。官と民の合意形成の場を見学したり実践している人の話を聞くセミナーで大正大学にて6回、現地研修を2回行っており、今回は2回目の現地研修であった。



清水先生より 国と観光庁の動きについて

雪国・みなかみの候補法人チェックシートと事業報告書を自信をもってしっかりと出すように。来年度から日本版DMOが事業の申請をし、5割補助をすると概算要求がでており総額20億の規模。

- ①候補を取ることが今の重要な動き。
 - ②新たな方針に従った整備計画策定を。11月6日の首長会議で来年度への意思統一を図る。
 - ③世界に通用するブランド
- 日本版DMOの登録は当たり前、そのあとの世界水準のDMOを目指す。

■ ツーリズムエキスポ振り返り(2017/9/21~24)
 全国にある13観光圏で初のブース出展、商談会、記者発表等。反響もよく、観光圏のブランド観光地域づくりの認知と評価を頂く。



雪国観光圏の理念

『100年後も雪国であるために』

ひとつずつでは埋もれてしまう地域資源を発掘し、つなぎ合わせ、磨き上げることで世界に通用する価値を生み出す。

雪国観光圏のブランドコンセプト

『真白き世界に隠された知恵に出会う』

各WG 29年度の動き

■観光協会連携WG

情報の共有と発信、相互販売。

- ・SCT プロの目からみたルートを観光圏で設定。
- ・事務局で作成した相互フローを元に。バウチャーは使わず、確認書で。津南と栄は観光圏内限定の旅行業代理業を検討。

■食文化WG

初年度:それぞれの生産者・加工業者が各自のミニ講演などで事例紹介しながら情報交換。

2年目:外部講師を招き先生から毎回学ぶ。公開講座にしてWGメンバー+市民の方で知識を深めていった。

3年目:A級グルメの参画施設向け(食が街を変える!セミナー)と一般に向けての料理教室・講演会(食の学校)を2本立てで行う。



■スノーカントリートレイルWG

許認可・プレスリリースは今年度中に、来年の夏前を目指している。今までグレーだったものも含め表面化しており、観光圏で徹底的にすべての許認可をとることで進めている。トレイルを使ったPRや事業展開を目指す。

- ・道標・MAP:山のグレーディングを参考に明記。
- ・プレスリリース:ブリッジにいがたで3月20日に開催予定。

■雪国文化WG

11月11日にシンポジウムを開催。テーマは地域を広げて・見て・学ぶ。会場は湯沢東映ホテル。翌12日にエクスカッションがあり城ライターのいなもとかおりさんと歴史ツアーを行う。

シンポジウム・エクスカッションともぜひご参加ください。



補助事業終了後のscfについて

scf



現在6万部を年4回発行し、広告料と不足分は補助金で補っている。次年度から補助金がなくなるが、どうするか？例えば年2回の発行とした場合、広告の集まりやすい夏冬は良いが春秋が難しい。その場合、雪旅(滞在プラン)や各情報等についても6か月先の提供となるなど課題も多い。配本についても、必用部数を確認して変動させる配本調整を試みたらどうか。クオリティが高いという評価もいただき、イベント等でもお客様が最初にとるのがこの本。このメンバー・会だから出せる内容で金額も破格であり、非常に安いメディアである。発行がスムーズにいくように予算化をお願いしたい。

スノーカントリートレイル(SCT)について

自然や文化や人と接して魅力を感じていくというのがロングトレイルの構想。世界でも珍しい豪雪地帯で冬になると雪に閉ざされて独自の文化や知恵が育まれているところを、1本のトレイルでつなぐ。地域の財産としてまとめ、発信することで世界的にもブランディングを行っていく。必要なMAPと道標を作成。安全管理体制として各市町村と雪国観光圏推進協議会との間で覚書を交わし、次の段階で道標デザインの検討。11月のWGでは具体的図面の作成作業も始めたい。11月25日には県の企画課に出向き駒ヶ岳の確認も行う。栄村では信越トレイルもあり、今後は信越トレイルを苗場山まで延長するのが最終目的でありSCTと繋がる。トレイルと集落の交流の仕方を考えている。周知についてはNPO法人信越トレイルクラブで行っている。

各プロジェクトの進捗状況 その他

■スーパー民宿支援事業 国内外から注目される事業者を15軒作り出す。現在30施設に声をかけ各地でネットワークを作っている。各観光協会からの推薦をお願いします。

■日本版DMO法人の申請について 候補を取る作業が10月25日に申請、審査。登録要件は5つ

- 1) 多様な関係者の合意形成 → 10年間の活動のなかで仕上がってきている。
- 2) データ収集・戦略策定・KPI・PDCA → KPIを策定し、ターゲットも決めた。
- 3) 戦略整合性の調査・仕組作り・プロモ → 全国観光圏との連携で整合性をもちプロモーションを実施している。
- 4) 法人格・責任者・人材確保 → 責任者も明確に。データ収集は顧客満足度調査やイベント調査を実施。
- 5) 安定的な運営資金の確保 → 推進協から10年間負担を頂いているがこの先については合意を得ていない部分を首長と話をし事業を実施する。5)が雪国観光圏唯一の課題。

* 北陸信越運輸局)日本版DMO登録に関して一部改正。データ収集にWEBサイトのアクセス状況が追加になった。

■次年度事業の予算と負担金について

観光協会の負担金に関して検討が必要。→ 今後11月の戦略会議の場では決めていきたい。

日本版DMOの補助制度は今後どうなっていくか？

→ 10月10日に全国観光圏と観光庁とで意見交換をする。正式に決まるのは年末の予算決定の時点。5年の総括を踏まえ新たにステップアップするために補助が必要だという論理構成が必要。

清水先生から

首長会議を11月までにやらなければならないと思う。何のために7市町村でやっているのかを考え、予算を決めていただきたい。コンセプト・事業の中身を明確に。

※次回戦略会議は、11月6日(月)13時30分～湯沢町役場で開催。

総選挙投票のお願い

英語圏には雪国観光圏の人气が高く訴求力があるが得票が伸びないのでご協力を。目標投票数は2000。

連絡先: 一般社団法人雪国観光圏事務局
新潟県南魚沼郡湯沢町大字湯沢2431-1
TEL025-785-5353 FAX025-785-6767